

令和 5 年9月定例会

令和 5 年9月21日(本会議) 一般質問

2 地域活性化策について

(1) ワインをいかしたまちづくりについて

石川:神奈川県は、都道府県別のワイン生産量で第一位となっており、その約95%がメルシャン藤沢工場で造られていることから、藤沢市はワイン生産量日本一のまちと言われています。藤沢商工会議所青年部の皆様のご尽力で、平成27年11月に初めて開催された「藤沢ワイン祭り」は、メルシャン藤沢工場の方々が全面協力されています。

まず、「藤沢ワイン祭り」の昨年度の来場者数など実施結果についてお聞かせください。また、このイベントは市外からも人が呼べる貴重なイベントだと思いますが、県内に同様のイベントがあるのかどうかを含め、今年度の実施予定と周知方法について、お聞かせください。

経済部長:昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況に配慮し、規模を縮小して実施したにもかかわらず、会場の藤沢駅北口サンパール広場には、市内外から約5,600人の来場者が集まり、ワインと音楽を楽しむ祭典として実施されました。

この「藤沢ワイン祭り」には、本市も共催として参画しており、地方自治体が共催するワインに関するイベントは県内で他になく、ワイン生産量日本一と言われる本市ならではのイベントとなっております。

今年度につきましては、11月25日(土)に「踊りたくなるような1日を」をコンセプトとして実施される予定でございます。本市といたしましても、市内外の多くの皆様にご来場いただき、藤沢の新しい文化を楽しんでいただけるよう、広報やSNSなどを活用し、幅広く周知を図ってまいります。

石川:今年度も11月25日に「藤沢ワイン祭り」が予定されているということで、私も楽しみにしたいと思います。少しずつ「ワインのまち藤沢」が浸透し、このイベントを楽しみにされている市民も増えていると思います。

ワインは酸味もあり、日本人にとってまだまだ飲み慣れていない方も多くいらっしゃると思いますが、「藤沢ワイン祭り」は、ワインの楽しみ方を教えてくれる素晴らしいイベントであると思っています。

ワインは、赤、白、ロゼと、食事にあわせて選ぶ楽しさがあります。「ワインのまち藤沢」を盛り上げていくことで、ワインにあうメニューを工夫して提供して下さる市内のレストランや飲食店も増えていくことも期待できます。

「ワインのまち藤沢」をさらに盛り上げていくための方策について、市の見解をお聞かせください。

経済部長:本市は、平成29年に、メルシャン藤沢工場と包括連携協定を締結し、様々な分野での連携を進めてまいりました。

「藤沢ワイン祭り」に加え、包括連携協定に基づく様々な連携により、多くの市民の皆様、ワイン生産量日本一のメルシャン藤沢工場を知っていただくことができたものと考えております。

「ワインのまち藤沢」を盛り上げていくためには、さらに多くの市民の皆様、ワインの魅力を知っていただき、日本一の工場が藤沢にあることを誇りに思っただけが必要であると考えております。今後も様々な団体、企業とのマルチパートナーシップによる取組を広げてまいりたいと考えております。

石川:今年5月に開催された「ふじさわ産業フェスタ」でも、ワインを通じて藤沢を元気にするというコンセプトで、メルシャン藤沢工場の方々がブースを出展されていました。ワインの無料試飲は約3,000名の来場者に振る舞われたと聞いています。

今年は新たなチャレンジとして、遠藤に工場がある、生クリーム製造で有名な中沢乳業さんとのコラボで、ワイン入りシャーベットの試食会も行い、ワインの楽しみ方を提案されてきました。市内の異なる2つの工場が連携するという珍しい取り組みも、「マルチパートナーシップ」が浸透している藤沢ならではのと思っています。とても良い取り組みであり、今後も企業間のコラボ商品は積極的に進めたいと思いますが、これまでの取り組みと今後の展開についてお聞かせください。

経済部長:企業間の連携による商品化の取り組みにつきましては、令和3年から、「メルシャン」と市内に生産拠点を構える「ありあけ」とのコラボレーションにより、「ご当地ハーバー」を開発し、数量限定での販売を実施しております。今年も、数量限定で、市内・県内のスーパー、コンビニエンスストア、江の島島内の商店等で7月から販売を開始し、既に完売に近い状況であると伺っております。また、過去には「メルシャン」と「山崎製パン」が市制80周年を記念して、赤ワイン入りの「ご当地ランチパック」を共同開発し、販売を行った実績などもございます。いずれも、本市の公式マスコットキャラクター「ふじキュン♡」をパッケージデザインに使用し、魅力あるご当地商品として、多くの方にご好評をいただいているところでございます。

こうした企業間のコラボ商品化につきましては、本市のシティプロモーションや郷土愛の醸成にも寄与するものと捉えておりますので、今後も多くの方に注目していただけるようなコラボ商品の実現に向けて、取り組んでまいります。

石川:メルシャン藤沢工場にはワインの分野で卓越した技能を有する社員の方がたくさんおられますが、特に、平成27年度に藤沢マイスターに認定された滝沢英昭(たきざわひであき)さんは、国内外のワインについて精通しており、公民館事業などでも活躍されているかと思えます。

滝沢マイスターと他のマイスターとのコラボも、新しい藤沢の魅力を生み出す取り組みとして、大変興味深いものだと思っています。これまでの取り組みと今後の展開についてお聞かせください。

経済部長:マイスター同士のコラボ企画としましては、平成30年度に行われた都市親善事業で、滝沢マイスターと茶師の佐々木マイスターがコラボし、歓迎レセプションでメルシャンワインと抹茶を使用したカクテルを振る舞うというパフォーマンスを実施したほか、令和3年度には、滝沢マイスターと洋菓子製造の渡部(わたなべ)マイスターが、ワインとドライフルーツの無花果(イチジク)を使った焼き菓子「湘南藤沢マリアージュ」を開発し、販売を開始しました。

また、令和4年度には滝沢マイスターとガラスアーティストのノグチマイスターによるワイングラスの制作販売を実施いたしました。現在は、新たな取り組みとして、和菓子づくりのマイスターとのコラボ商品の開発を進めているところございます。

本市では、多様な職種のマイスターを13名認定しており、講演会や体験教室の実施など市が開催する事業等にご協力をいただいております。今後もマイスター同士のコラボ企画を通して、本市が誇るマイスターの優れた技能を広く市民に周知するなど、技能等を尊重する風土の醸成を図るとともに、藤沢の新たな魅力を創出してまいりたいと考えております。

石川:ワイン生産量日本一のメルシャン藤沢工場は、ここ7・8年の様々な取り組みによって、市内でも多くの方に知られるようになってきたと思えます。

小学校給食の調理にもメルシャンのワインが使用されたり、市内小学校の献立表にも、ワイン生産量日本一のメルシャン藤沢工場を紹介する内容が掲載されたりしていると聞きました。地元の子どもたちにも知ってもらい、地元の工場に愛着を持ってもらうことは非常によいことだと思います。

今後も、市内における周知・浸透に加え、市外に向けたPRも充実していくべきだと考えますが、市の考えをお聞かせください。

経済部長:メルシャン藤沢工場の、市外に向けたPRにつきましては、今年5月にそごう横浜店で開催された「横濱フェア」に、メルシャン藤沢工場が初めて出展され、「日本一のワインの街:神奈川・湘南・藤沢」・「神奈川県ワイン出荷量 日本一!」を多くのお客様にアピールされておりました。このフェアでは、本市が作成した滝沢マイスターのパネルも掲示いただくなど、藤沢市のPRもしていただいたところでございます。

今後は、神奈川県とも連携して、市外に向けたPRにも取り組んでまいりたいと考えております。

石川: 今回の一般質問では、「ワインをいかしたまちづくり」を取り上げましたが、藤沢には、ほかにも全国区で有名なもの、藤沢にしかない貴重なものが、たくさんあります。

全国的な知名度を持つ「湘南・江の島」はもとより、市内の大学、マリンスポーツ、各分野で活躍する人材など、自慢したくなる事柄は数多く思い浮かびます。産業の分野では、メルシャン藤沢工場のほかにも、完成車メーカーのマザー工場である、いすゞ自動車藤沢工場や、オープンイノベーションを掲げる湘南アイパークなど、有力な拠点が市内には数多く立地しています。

私が注目したいのは、市民の皆様にほとんど知られていない市内中小企業の中に、国内唯一の、他にはない特色を有する企業があるという点です。例えば、遠藤にあるスワロー食品は国内唯一の春巻き専門メーカーとして、数多くの春巻きを生産されています。

湘南の元気都市藤沢を、持続可能なまちにしていくためには、「ワインをいかしたまちづくり」のように、藤沢の特長を生かしたまちづくりが重要と考えますが、市のお考えをお聞かせください。

市長: 私が藤沢市長に就任し、初めてメルシャン藤沢工場に伺った際に、ワイン生産量日本一のお話を伺いましたが、当時はまだ、市民の皆様に知られておりませんでした。

その後、メルシャン藤沢工場とは、「藤沢ワイン祭り」や包括連携協定をきっかけに、ワインに関する取り組みのほか、地域における認知症に関する取り組みや、市職員の民間企業派遣研修の受け入れなど、様々な連携に発展したことを大変嬉しく思っております。

「ワインをいかしたまちづくり」のように、藤沢にある貴重なものを掘り起こし、「日本一である」とか、「藤沢にしかない」といった点に着目して磨き上げ、地域の魅力として市民の皆様に知っていただき、郷土愛の醸成と地域活性化につなげていくことは、とても大事な視点であると考えております。

私は、これまで、藤沢らしさを大切にして未来に向けたまちづくりを進めてまいりました。

これからも、藤沢が日本一であるもの、藤沢にしかないものを積極的に活用することで、藤沢らしさを未来につなげる持続可能なまちづくりを進めてまいりたいと考えております。